

# 日本史探究

(4 問題 100 点)

## I

### 日本史探究問題

(20 点)

次の史料(A～C)を読み、問(1)～(20)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。なお、史料の表記は便宜上、改めたところがある。

A

二日辛丑。(中略)今日申刻、法皇、<sup>(a)</sup>鳥羽安楽寿院御所において崩御す。<sup>ほうぎょ</sup>(中略)  ア <sup>(a)</sup>天皇一皇子。母女御苡子。康和五年(1103)正月、降誕。同年六月、親王となる。同八月、皇太子に立つ。嘉承二年(1107)七月、<sup>じゅぜん</sup>受禪。<sup>(注)</sup>同十二月、即位。(中略)保安四年(1123)正月、<sup>(b)</sup>第一親王に譲位す。大治四年(1129)七月、白河院<sup>あんが</sup>晏駕す。その後、<sup>(c)</sup>三代の天子を登用し、惣じてすでに二十九年世の政を行いおわんぬ。(中略)

十日己酉。<sup>(d)</sup>上皇、白河殿において軍兵を整えられる。(中略)晩頭、<sup>(e)</sup>左府、宇県より参入す。<sup>(注)</sup>前馬助平忠正、散位源頼憲、おのおの軍兵を發す。ひとえに合戦の儀がためなり。時に上皇・左府、額を合わせて議定す。(中略)禁中、<sup>(注)</sup>時に高松殿、<sup>せんぎ</sup>彼の僉議により、同じく武士を集めらる。下野守義朝、右衛門尉義康、陣頭にさぶらう。このほか、安芸守  イ <sup>(注)</sup>朝臣、兵庫頭頼政、散位重成、左衛門尉源季実、平信兼、右衛門尉平惟繁、勅定により参会す。しばらく晩頭におよび、軍、雲霞のごとし。関白殿ならびに中納言殿、参内せしめたまう。(中略)夜にいたりて、 イ <sup>(注)</sup>朝臣以下おのおの甲冑を着し、軍兵を引率す。(中略)十一日庚戌。鶏鳴、 イ <sup>(注)</sup>朝臣、義朝、義康等、軍兵すべて六百騎、白河へ発向す。

(『兵範記』保元元年(1156)7月条)

(注) 「受禪」は、前帝の譲りを受けて帝位につくこと。

「晏駕」は、死ぬこと。

「宇県」は、宇治のこと。

「禁中」は、当時の御所のこと。

「彼の僉議」は、白河殿での議定のこと。

問

- (1) 下線部(a)の鳥羽は、この頃に開発が進む地域の名称である。鳥羽の地は平安宮からみて、どの方角にあるか。東・西・南・北のうちから、1つ選べ。
- (2)  は史料中の「法皇」の父である。 に入る適当な語句を記せ。
- (3) 下線部(b)と下線部(d)は同一人物を指す。その人物は誰か。
- (4) 下線部(c)のような政治形態を何と呼ぶか。
- (5) 下線部(e)の「左府」は左大臣を指す。その人物は誰か。
- (6)  に該当する人物は誰か。その姓名を記せ。
- (7) 11日に発生した合戦で勝利した権力者が、前日10日にいた邸宅の名称を、史料中より抜き出して記せ。

B

我国昔より海外に通問する諸国少なからずといえども、事便宜にあらざるが故に、<sup>(f)</sup>嚴禁を設けて、我国の商戸<sup>しょうこ</sup>外国に行く事をとどめ、外国の商賈<sup>しょうこ</sup>も亦た<sup>(注)</sup>やすく我国に来ることを許さず。<sup>(g)</sup>強て来る海舶ありといえども、固く退けていれず。唯唐山・ウ・琉球・紅毛の往来することは、互市の利を必とするにあらず。来ることの久しき素<sup>もと</sup>より其謂<sup>そのいわ</sup>れあるを以てなり。<sup>(h)</sup>其国の如きは、昔より未だ曾<sup>かつ</sup>て信を通ぜしことなし。<sup>(i)</sup>計らざるに前年我国漂流の人をいざないて、松前に来りて通商を乞う。今又長崎に到り<sup>よし</sup>好みを通じ交易を開かん由を計る。既に其事再びに及んで深く我国に望む所あるも又切なるをしれり。然りといえども、望み乞う所の通信通商の事は、重ねて<sup>ここ</sup>爰に議すべからざるものなり。<sup>(k)</sup>

(注) 「便宜」は、都合のよいこと。

「商戸」「商賈」は、商人のこと。

問

- (8) 下線部(f)に関連して、江戸時代初期に日本国内でイギリスの商館が置かれたのはどこか。地名を答えよ。
- (9) 下線部(g)の「厳禁」以前に、将軍が外国への渡航許可証を与えた船を何というか。
- (10) 

|   |
|---|
| ウ |
|---|

 に入る国名を記せ。
- (11) 下線部(h)は、貿易の利益という意味である。これに関連して、新井白石は、金や銀、銅の海外流出を国家の損失と考え、長崎貿易の額を制限した。この法令を何というか。
- (12) この史料は、下線部(i)の「其国」の使節の要求に対する江戸幕府の回答である。「其国」の国名を記せ。
- (13) 下線部(j)の「漂流の人」とは誰か。
- (14) 下線部(k)に示された外交姿勢は、1844年に、ヨーロッパの国から変更するよう勧告された。その国はどこか。国名を記せ。

C

大正十二年十二月二十七日、山本内閣は虎ノ門事件の責を負うて辞職し、翌十三年一月七日、清浦内閣が成立した。同内閣はいわゆる貴族院内閣である。政友会はこの内閣を援助するや否やについて賛否両論に分れ、遂に分裂して過半数の脱党者は別に エ を組織して政府援助に向い、憲政会は政友会および革新倶楽部とともに三派連合して憲政擁護運動を起こしたが、一月三十一日衆議院は突如として解散せられ、五月十日が選挙期日と定められた。待ちに待ちたる時は到来した。<sup>(m)</sup>

私の演説の骨子は、(中略)多数言論機関の批評中の一節を挙げれば、(中略)報知新聞「斎藤君が起上った。決死の咆哮一時間二十五分！非常時を缶詰にした議事堂は揺いだ、議員も傍聴人も、大臣も有ゆる人の耳は震えた。七日の非常時議会は遂に斎藤隆夫氏の記録的名演説を産んだのだ。斎藤さんは先づ議会政治の擁護、<sup>(n)</sup>肅軍の偽なき信念、論旨は進む、舌端は火を吐く、その一言々々慨世の絶句だ。斎藤さんの口調に段々熱気が増した。場内の私語がぱっと消えた。広田首相、寺内陸相に質すその一句毎に万雷の如き拍手が起る。民政も政友も無産も与党も野党もない。煮え繰返る場内から拍手の連続だ。 オ 事件のことに及んだ時、議席の犬養健君がはっと俯伏した。涙を拭って居る。憲政擁護に生涯を終始した父君の面影が、身も心も感奮の為め躍り上ったのだ。(後略)」

(斎藤隆夫『回顧七十年』。上段は斎藤が当選した衆議院議員選挙についての回顧談、下段はその13年後に衆議院で行った演説についての新聞記事を回顧録に収めたものである。)

問

- (15) 下線部(l)の事件で、狙撃された人物は誰か。
- (16) に入る政党名を記せ。
- (17) 下線部(m)について、このときの選挙における選挙人(有権者)数が日本内地の人口に占める割合はおよそ何%か。次のうちから最も近いものを1つ選べ。
- 1 %                      5 %                      20 %                      50 %
- (18) 下線部(n)に関して、議会で閣僚が行った演説が政府自らに打撃を与えることもあった。第一次大隈内閣では、文部大臣が、自身の行った演説がもとで、不敬との批判を浴び辞任に追い込まれた。この文部大臣とは誰か。
- (19) 下線部(o)の首相の在任時、帝国国防方針の改定をもとに「国策の基準」が決定された。そこでは、「東亜大陸における帝国の地歩を確保するとともに  方海洋に進出発展する」と述べられた。空欄に入る適当な漢字1字を記せ。
- (20) に入る適当な語句を記せ。

## Ⅱ 日本史探究問題

(20 点)

次の文章(①～⑩)の  ア  ～  ト  に入る最も適当な語句を記せ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

- ① 朝鮮半島では、3世紀前半に楽浪郡を割いて  ア  郡が設置され、倭人との交流が行われた。230年代末には、女王の卑弥呼が魏に遣使し、  
 イ  の称号を与えられた。
- ② 古墳時代には、石室の壁面などに彩色画などをほどこす  ウ  古墳がつけられた。7世紀には高句麗僧の  エ  が絵の具・紙・墨の製法を倭に伝えた。
- ③ 平安時代の大学では貴族への教育が重視され、中国の歴史や文学を学ぶ  オ  が盛んとなった。有力貴族は、一族子弟の教育を支えるために学生の寄宿舎を設けたが、藤原氏が創設した  カ  も、そうした寄宿舎の1つである。
- ④ 平安時代には浄土教が流行し、 キ  が『往生要集』を著した。また、仏像の大量需要や巨大な仏像の製作に対応するため、複数の部材を接合して仏像を完成させる  ク  と呼ばれる手法が開発された。
- ⑤ 古代より僧侶が神前で読経することはあったが、平安後期より主要な神社には仏塔が建立されはじめ、神仏習合が進展することになる。そのようななか、日本の神々を仏の化身(権現)とみなす  ケ  説が生まれた。一方、鎌倉後期になると伊勢外宮の神官である  コ  は  ケ  説とは逆の見方を示し、伊勢神道を大成した。
- ⑥ 平安末期・鎌倉時代には、農業の集約化が進み、刈敷や草木灰が肥料として用いられ、 サ  を裏作とする二毛作も畿内から西日本にかけて広がった。また、 シ  の原料となる楮など原料作物の栽培も行われた。
- ⑦ 徳川家光の死去直後、兵学者の  ス  が幕府転覆を企てた事件が発生した。幕府は、大名改易によって生じていた多数の  セ  が社会不安の要因であると認識し、 セ  の増加を防ぎつつ、その取り締まりを強化した。

- ⑧ 徳川吉宗は、幕府の財政を再建するため、法を採用し、年貢の増徴をはかった。また、を編さんさせ、裁判や刑罰の基準を示した。
- ⑨ 大日本帝国憲法は、第1条に「大日本帝国はの天皇これを統治す」と掲げた。また、憲法とともにが定められ、皇位継承などの制度が規定された。
- ⑩ 1947年に制定された法によって都道府県知事・市町村長は公選となった。翌年には、都道府県・市町村ごとに公選制による教育委員会が設けられたが、1956年からその委員は制となった。

次の文章・表・グラフ(A～C)の  ア  ～  ス  に入る最も適当な語句を記し、問(1)～(13)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A

南北朝内乱がはじまり、世の中の秩序が乱れるなか、『建武式目』が記すように、「或いは茶ちや寄より合あいと号し、或いは連れん歌が会えと称して莫大の賭けに及ぶ」ことが流行し、「昼打入り、夜強盗、処々の屠殺、辻々の引き剥ぎ」など、悪質な犯罪行為も横行した。そうした混乱の一方で、武士勢力の成長も進み、華美さや派手さを強調し、ともすると伝統的権威を無視する風潮も生まれた。<sup>(b)</sup>

やがて南北朝内乱が終息へと向かうなか、室町幕府は、中国の官寺の制にならい、京都・鎌倉の五山・十刹の制を整え、足利義満は、 ア  を別格の寺院として五山の上に位置づけた。<sup>(c)</sup>そうした動きと併行して、禅僧による中国大陸との往来や、船舶による貿易などを通じた大陸との交流も続き、大陸から船で運ばれた物品も珍重された。<sup>(d)(e)</sup>

その後、応仁・文明の乱などによって、政治状況が混乱する一方で、禅と公家文化の影響を強く受けた文化も花開いた。この文化は、足利義政が建てた  イ  山荘に象徴されることから、 イ  文化と呼ばれる。建築では、武士など上級階層の間で、部屋の内外を仕切る襖や明  ウ  を用い、畳を全面に敷きつめた書院造と呼ばれる建築様式も成立し、白砂や大小の岩を平庭に配した作庭様式も現れた。<sup>(f)</sup>

問

- (1) 下線部(a)に関連して、数種類の茶を飲み、その味を飲み分ける競技を何と  
いうか。
- (2) 下線部(b)のような風潮を何というか。片仮名 3 字で答えよ。
- (3) 下線部(c)が中国の王朝への国書に署名した称号は何か。漢字 4 字で答え  
よ。
- (4) 下線部(d)に関連して、
  - (あ) この時期の中国の王朝が、公認した貿易の証として、冊封関係にある国  
王に与えた割符<sup>わりふ</sup>を何というか。
  - (い) この時期に中国大陆から新たに銭貨が流入するなか、価値の低い悪銭の  
取り引きを拒み、良質の銭貨を選んだ行為を何というか。
- (5) 下線部(e)について、こうした物品を総称して何というか。
- (6) 下線部(f)のような作庭様式を何というか。

B

戦国時代には、下位の者が実力で上位の者をしのいでいくという エ の風潮が社会に広がっていたが、江戸時代になって戦乱が終息すると、<sup>(g)</sup>上下の秩序を重んじる風潮<sup>(h)</sup>が高まった。1657年、津藩では、「殿様は当分の御国主、田畠は公儀の田畠」(『宗国史』)という考え方が表明された。ここでの「公儀」の意味は複数考えることができるが、次に示す1667年の史料が同じ内容を言い換えて説明しているとすれば、「公儀」は、オ という官職に就任している人物を指すと判断できる。1667年、津藩において藩主の考えとして示されたのが以下のような文章である。

いが・いせ・大和・山しろともに、殿様の御国と存じ奉るまじく候。御国は上様の御国にて、殿様は当分の御給人と思し召し候えば、百姓などいたみ、或いは飢死、或いは人すくなく成り申す様にては、御国御預かり成され候かいも御座無くと思し召し候。(『宗国史』)

このような考え方は、他にも例がある。例えば1649年、岡山藩の池田光政は、家臣に対し、「私の領地は自分のものとは考えておらず、民を安穩に治めるための カ に任命されたと考えている」と述べた。ここでの カ は、幕府が直轄都市などを支配するために派遣した職名としての カ というよりは、「命じられて職務を担当するもの」といった広い意味で使われている。また1654年、光政は、家臣が窮乏していることを問題視し、「家臣が大名に対する軍役を負担できなくなれば、藩は幕府に対する軍役<sup>(i)</sup>を負担できなくなり、それは大名に対する家臣の「不忠」になる」と述べ、贅沢をやめて支出を減らす キ を指示した。キ は、江戸時代の政治における基調となる政治方針であり、幕府や藩の改革<sup>(j)</sup>の中でも頻繁に キ 令が発令されている。

江戸時代後期になると、幕府は天皇から国を預けられて政治を担っているという考え方が広がってくる。例えば、老中に就任して寛政の改革を主導した松平定信は、この考え方を、幕府の支配の正統性を担保するものと考えていたようである。しかし、後に、この考え方に基づき、幕府は天皇に政権を返上することになった。これが ク と呼ばれる出来事である。

問

- (7) 下線部(g)について、最後の戦乱といえるのは豊臣氏が滅ぼされた戦いである。この戦いの終結直後に定められた年号は何か。
- (8) 下線部(h)について、江戸時代には、上下の秩序を重んじる儒学が次第に盛んになった。徳川家康の侍講として登用され、子孫も幕府に代々仕えることになった儒者は誰か。
- (9) 下線部(i)を課される際に基準となったのは何か。漢字2字で答えよ。
- (10) 下線部(j)について、18世紀末期、藩政改革を進め、「名君」と呼ばれた米沢藩主は誰か。
- (11) 下線部(k)が開始された背景には、その直前に江戸の町でおこった出来事の影響があった。それは何か。

C

表は 1865 年の日本の輸出入について、総額と品目ごとの割合を示す。グラフは 1927 年から 1934 年の輸出について、総額と一部品目の金額を示す。

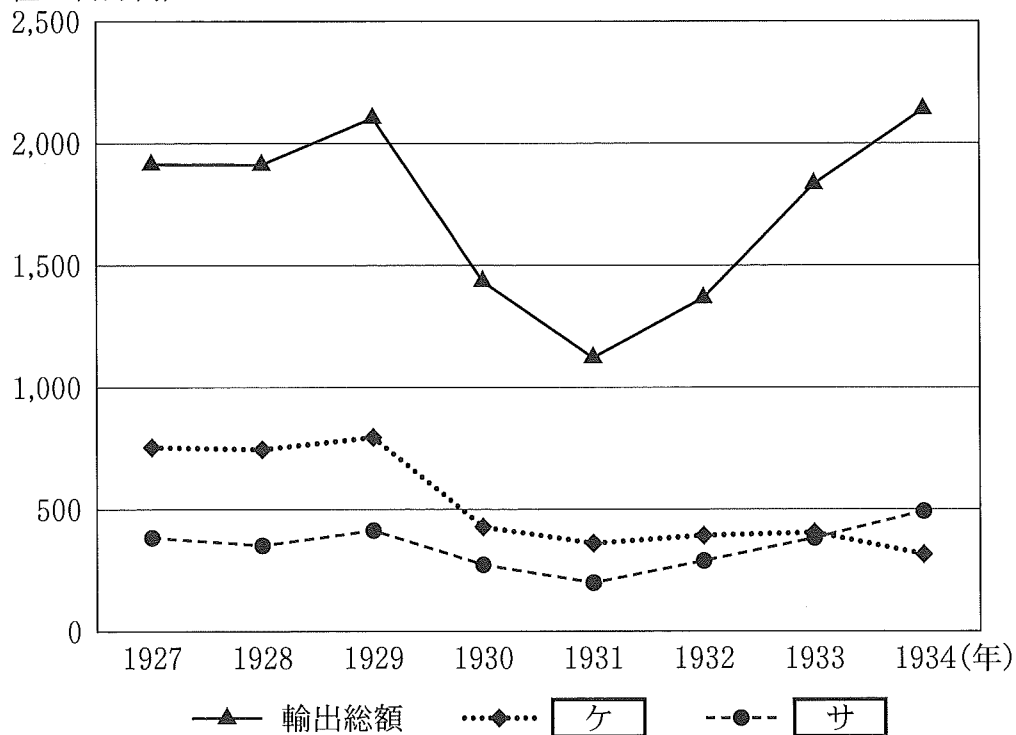
表 1865 年の輸出入

| 輸出(総額 1,849 万ドル) |        | 輸入(総額 1,514 万ドル) |        |
|------------------|--------|------------------|--------|
| ケ                | 79.4 % | 毛織物              | 40.3 % |
| コ                | 10.5 % | サ                | 33.5 % |
| 蚕卵紙              | 3.9 %  | 武器<br>(1)        | 7.0 %  |
| 海産物              | 2.9 %  | 艦船               | 6.3 %  |
| その他              | 3.3 %  | シ                | 5.8 %  |
|                  |        | その他              | 7.1 %  |

(石井孝『幕末貿易史の研究』より作成)

グラフ 1927 年から 1934 年の輸出

(単位：百万円)



(大蔵省編『日本外国貿易年表』より作成)

表では、輸出総額が輸入総額を大幅に上回っている。その影響もあって、この時期、日本国内の物価は急激に  ス  した。

表で輸入品の第2位である  サ  は、グラフでは主要な輸出品の1つになっている。この変化の背景には、 サ  の原料となる  シ  の製造が国内で盛んになったことがある。表で輸出品の第1位である  ケ  は、グラフの1927年でも輸出総額の39.4%を占めた。しかし、1934年には、 ケ  と  サ  の順位が逆転するに至っている。  
(m)

問

- (12) 表中の下線部(1)に関連して、長崎在住のイギリス人は1866年8月、次のように記した。

大君は卑怯<sup>ひきょう</sup>にして時日を延ばし、止むを得ず遂に  と戦争に及ばれたる。然れども  は、去る二ヶ年の間に力を尽して兵を練り、能く整頓せり。その武器も江戸に比すればさらに能く整いたり。ただし、 は不正なる役人貿易の筋より武器を買入れずして、正しき商人の手より買収せり。

(「横浜新報」1866年8月27日)

- (a) 史料中の「大君」とは誰か。その姓名を記せ。
- (i) 史料中の空欄には全て同じ語句が入る。最も適当な語句を記せ。
- (u) 史料中の「役人貿易」は、ある国による幕府への軍事的な援助を指す。その国名を記せ。
- (13) 下線部(m)について、
- (a)  ケ  の輸出額の変化に最も影響を与えた出来事は何か。グラフも手掛かりに答えよ。
- (i)  サ  の輸出額が、 ケ  の輸出額を逆転するに至る起点となる政策が行われた年として、最も適当なのは、次の①～④のどれか。グラフも手掛かりに答えよ。
- ① 1927年                      ② 1929年                      ③ 1931年                      ④ 1933年

**IV****日本史探究問題****(30 点)**

次の問(1), (2)について, それぞれ 200 字以内で解答せよ。解答はいずれも所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

- (1) 平城京の特徴について, 藤原京との差異や東アジアからの影響にふれながら具体的に説明せよ。
- (2) 第二次世界大戦末期から 1970 年代初めまでの間, 沖縄の人々がどのような政治状況の下に置かれ, どのようにそれに向きあったかを説明せよ。

**日本史探究問題は, このページで終わりである。**